

June 2009

発行者：財団法人 かなえ医薬振興財団

協賛：サノフィ・アベンティス株式会社

## 平成21年度・第38回 かなえ医薬振興財団 助成金公募を開始しました！

「かなえ医薬振興財団」は、今年で38回目を迎える「研究助成金および海外留学助成金」の公募を開始しました。医学・薬学及びその関連領域における若手研究者を対象に、研究助成を行なっています。研究助成の交付金額は4,300万円（1件100又は200万円）、また海外留学助成の交付金額は1,800万円（1件120万円）を予定しています。

応募資格：40歳以下（海外留学助成は35歳以下）の医学、薬学およびその関連領域における研究者

応募領域：研究助成金／海外留学助成金とも、臨床医学1～4、及び基礎医学1～2の全6領域。

■臨床医学1；神経／脳

■臨床医学2；循環器

■臨床医学3；消化器／代謝

■臨床医学4；呼吸器／その他

■基礎医学1；癌／免疫／ゲノム／感染

■基礎医学2；神経／薬理／薬物動態／その他

募集期間：6月1日～7月31日（必着締切）

審査：10月の選考委員会で厳正に審査し、理事会の承認後10月末に選考者に通知

詳しい情報は財団ホームページをご覧ください。申請書等がダウンロード出来ます。

→ URL：<http://www.kanae-zaidan.com/>

### ◆財団 理事からのメッセージ



“変わりつつある臨床研究” かなえ医薬振興財団 理事 猿田 享男

（慶応義塾大学 名誉教授・医療研修推進財団 理事長）

日本の基礎研究の充実に対し、臨床研究の遅れが指摘されてから約10年が経過したが、ここへきてやっと明るい兆しがみえてきた。大学や大病院に勤務する医師にとって大切なことは、最先端で最良の医療を患者に提供することと、研修医等、若い医師の指導である。最良かつ最先端の医療の提供のためには、しっかりとした診断・治療のエビデンスを作成するとともに、現代社会が求める最先端の医療をいかに速く実用化するかである。ここ数年、医療の各領域で日本人を対象とした大規模臨床試験が実施され、これまで参考とされてきた欧米における大規模臨床試験成績とかなり異なることも明らかになり、その成績が日常臨床の現場に活かされてきている。また大学や研究所における最先端の研究が臨床へ活かされるトランスレーショナルリサーチに力が注がれ、それを支援するプロジェクトも立ちあがった。今後この動向を上手に育て、日本の臨床研究の更なる発展が期待される。

## ◆財団 評議員会 新議長の挨拶



かなえ医薬振興財団 評議員会 新議長

春日 雅人（国立国際医療センター研究所 所長）

資源の少ないわが国が、今後も国際的に活躍して、先進国の一員であり続けるには、“科学立国”として生き残る他に道はないという議論は最近よく耳にする。しかしながら、身近にはこの“科学立国”を踏まえた施策を実感できていないのが現実である。一方、研究の現場で、医学研究者、特に医学部出身の医学研究者の減少は実感する所である。これは、同じ医学部出身であっても、臨床家と研究者の収入をはじめとする格差が余りにも大きすぎるのを考慮すると当然かもしれない。まず、研究者の“待遇”を改善しなければわが国が“科学立国”として生き残れないのは明白である。

医学研究は、個人で行うよりチームで行う方が効率的であり何かと有利な点が多い。そして、ある程度の人数がいないとチームとして成立しないのである。独立した若手研究者を育てるという方針は結構だが、若手研究者がチームを形成できるような工夫が研究費の面でなされないと、すなわち何人かの優秀な人材を雇用できる研究費をつくらないと、貴重な人材を逆に潰すことになりかねない。

研究者の待遇や研究費については難問が山積しているが、公民が補完しあいながら一步一步解決してゆくことが重要である。かなえ医薬振興財団は、37年にわたり日本の医学研究を支援されてこられたが、今後も引き続き若手研究者のために御支援頂けるよう心からお願い申し上げます。



5月14日に開催された評議員会の様子

## ◆歴代受賞者からのメッセージ



第29回（平成12年度）研究助成金受賞者

篠原 隆司（京都大学大学院医学研究科 分子遺伝学 教授）

私にとってかなえ財団からの助成金は初めて獲得した研究費であり、思い出深いものです。日本に帰国直後の9年前は今のような「若手ブーム」はなく、私の獲得できるような科研費は今に比べると小規模なものでした。「研究は人がやらないことをしないと意味がない」と思い飛び込んだ精子幹細胞の研究でしたが、逆にどこにも属さない分野という弱みもありました。しかし、海のものとも山のものともつかない私の研究に高い評価を頂き、非常に喜ぶと共に驚いた次第です。受賞に際しても永富さん\*（ご苦労さまでした）がお見えになり、財団の設立趣旨、過去の受賞者を改めて紹介して頂くと、これは大変なものを頂いたなと、身が引き締まる思いでした。以後、精子幹細胞の培養系を確立し、流行のES細胞とは異なる方法で遺伝子ノックアウト動物を作ることに成功し、さらにこの培養細胞には潜在的にES細胞と同等の多能性があることを証明できました。受賞から9年、今は「不惑」の歳になりましたが、あの頃の初心を忘れずに次のゴールであるラットの遺伝子改変と試験管内精子形成の研究に邁進していく所存です。今後も若手育成の事業を継続していただけることを期待しております。

※前事務局長



### 第 29 回 (平成 12 年度) 研究助成金受賞者

寺内 康夫 (横浜市立大学大学院医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学 教授)

私は昭和 63 年に東京大学を卒業後、2 年間の内科研修を経て、第 3 内科に入局し、門脇孝先生が主宰される糖尿病グループに入れさせていただきました。当時のインスリン作用・分泌の研究は細胞レベルでの解析が中心でしたが、これからは個体レベルでの解析を進めないと、多臓器が病態に絡む糖代謝異常の理解はできないと思っていました。とは言っても、ノックアウトマウスの作製が海外で始まったばかりで、国内からの報告はほとんどない時代で、ボスの判断に従い、熊本大学の山村研一先生のもとに国内留学したのが平成 3 年です。1 年間ほどの勉強後、第 3 内科に戻って PI3 キナーゼ調節サブユニットとグルコキナーゼのノックアウトマウスの作製に専念しましたが、2 年間ほどうまく行きませんでした。ボスはそんな私を見て、「君は基礎研究に向いていないから、臨床に専念した方がいい」と方向転換を勧めましたが、やんわりとお断りし、今まで以上に研究に打ち込みました。結果的には欧米のグループとほぼ同時になりましたが、プライオリティは確保することができました。研究資金のことをあまり心配せずに、研究に専念できたのはボスのおかげだと本当に感謝しています。そんな私が始めて獲得した外部資金が、かなえ医薬振興財団研究助成金でした。平成 17 年に現在の職場に移りましたが、早速研究資金の獲得に努め、研究環境を整えました。といっても基礎研究の成果がでるようになったのは最近のことで、とてもボスのようにはいきません。若い研究者に勇気と自信を与える存在としての「かなえ医薬振興財団」が益々発展されますことを心よりお祈り申し上げます。

## ◆海外留学レポート



### 第 30 回 (平成 13 年度) 海外留学助成金受賞者

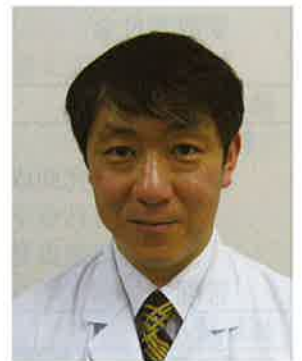
伊藤 泰広 (トヨタ記念病院 神経内科 部長)

留学先：Institut für Klinische Neurobiologie, Würzburg Universität

この度、名古屋大学大学院医学研究科神経内科学 祖父江元教授の御推挙を頂き、貴財団から海外留学助成金を頂けることとなり、1999 年 12 月から 3 年半、ドイツ連邦共和国ビュルツブルグ大学 Michael Sendtner 教授のもとで、神経栄養因子と末梢神経の分化と機能維持に関わる研究を行ってまいりました。Sendtner 教授の施設は神経栄養因子と運動神経の生存・維持に関わる研究で世界的にもレベルが高く、多くの業績をあげています。またこの機会に、私が祖父江教授から大学院時代に与えられた研究テーマ、「末梢神経系における神経栄養因子の機能と発現調節機構」をさらに深めることが出来、本当に有意義な研究生活でした。

ビュルツブルグは有名なロマンティック街道の北の玄関に位置し、かつては司教町として栄えた美しい小都市です。私の留学中、ビュルツブルグ大学は創設 600 年を祝いました。この大学で、日本に西欧医学を伝えたシーボルトが学び、レントゲンがエックス線を発見し、またアルツハイマーも医学生時代を過ごしました。ヨーロッパの大学は人類の知的欲求から生まれ、育まれてきた歴史と伝統がありますが、そのような場所で修練を積むことができたのは貴重な経験でした。

帰国後は臨床医に戻り診療に明け暮れる毎日ですが、留学で培ったリサーチマインドを、臨床の場でも忘れずにいたいと思っています。最後に「かなえ医療振興財団」が益々発展されますことを心よりお祈り申し上げます。



## ◆平成 20 年度 事業報告

〈研究助成事業〉

平成 20 年度 第 37 回の助成事業は、6 月より公募を開始し 7 月 31 日をもって締切り、研究助成金 495 件、海外留学助成金 149 件の応募がありました。10 月 15 日の選考委員会で厳正な選考が行われ、理事会の承認を受け平成 20 年度の研究助成及び海外留学助成が決定されました。研究助成金は、1 件あたり 100 万円又は 200 万円で計 41 名に総計 4,400 万円が贈呈されました。また、海外留学助成金は 1 件あたり 120 万円で計 16 名に総計 1,920 万円が贈呈されました。

〈業績集の発刊〉

平成 18 年度 第 35 回の研究助成金受賞者の研究報告書を纏めた「受賞者研究業績集 第 35 集」を 9 月に発刊いたしました。該当の先生方にはご多忙のところ、貴重な時間を割いてご協力いただき深く感謝申し上げます。

## ■収支決算報告

### 正味財産増減計算書

平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

(単位：円)

科目	金額
・経常増減の部	
基本財産受取利息	481,315
特定資産受取利息	136,372
受取寄付金	68,000,000
雑収入	87,058
経常収益計	68,704,745
・経常費用	
事業費・研究助成金	44,000,000
海外留学助成金	19,200,000
業績集発行費	1,291,724
管理費	9,588,315
経常費用計	74,080,039
経常外費用計	61,372
当期経常増減額	-5,375,294
一般正味財産期首残高	48,773,592
一般正味財産期末残高	43,336,926
指定正味財産期末残高	120,000,000
正味財産期末残高	163,336,926

### 貸借対照表

平成 21 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科目	金額
・資産の部	
流動資産	9,336,926
固定資産	154,000,000
資産合計	163,336,926
・負債の部	
流動負債	0
固定負債	0
負債合計	0
・正味財産の部	
指定正味財産	120,000,000
(うち基本財産への充当額)	(120,000,000)
一般正味財産	43,336,926
(うち特定財産への充当額)	(34,000,000)
正味財産合計	163,336,926
負債及び正味財産合計	163,336,926

## 発行

財団法人かなえ医薬振興財団 事務局

〒163-1488

東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ・アベンティス (株) 内

Tel : 03-6301-3090 FAX : 03-6301-3094

E-mail : kanae.zaidan@sanofi-aventis.com

URL : <http://www.kanae-zaidan.com/>

### ■ご協力お願いします

このニュースレターは歴代の助成金受賞者の皆様を中心にお送りさせていただいております。もし、送付先に変更がありましたら、登録情報を更新させていただきます。お手数ですが email 等でご連絡いただきますようよろしくお願い申し上げます。